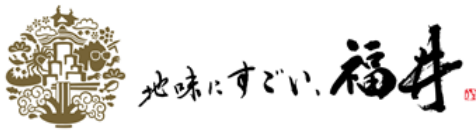


各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病虫害発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。



連絡先 福井県農業試験場病虫害防除室
TEL 0776-54-5100
FAX 0776-54-6403
E-mail byogaichu-boujo@fklab.
fukui.fukui.jp



福井県病虫害防除室 🔍 検索

令和5年農作物病虫害発生予察予報第4号

6月の気象概況

期間の前半は、天気は数日の周期で変わらぬでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

[水稻関係]

病虫害名 葉いもち

1 予報内容

発生時期：全般発生開始期は平年並みの6月6半旬

被害程度：少発、ただし山間、山沿いの常発地では中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 圃場に放置されている補植用苗は、葉いもちの伝染源となるため、早急に除去する。除去した苗は畦畔に放置せず、土中に埋める。
- (2) 葉いもちが多発生する恐れのある圃場では、6月10日までに必ず予防粒剤を施用する。施用時期が遅れると、薬剤の防除効果が劣るので注意する。粒剤の施用は湛水状態で行い、自然落水させる。施用後1週間程度はかけ流しをしない。
- (3) 粉剤や液剤での防除適期は、全般発生開始期の7日後となる。防除時期が遅れると効果が劣るので注意する。また、薬剤を散布した圃場でも、上位葉に新たに病斑が見られた場合は、散布10日後に追加防除を行う。
- (4) 苗箱処理剤や予防粒剤を施用した圃場では、基本的には防除の必要はない。ただし、発生が見られた場合には、直ちに粉剤または液剤で防除する。
- (5) 直播栽培等熟期の遅い作型では、葉いもちが発生しやすいので的確に防除する。
- (6) 苗いもちの持込みがあると早期にほとんどの株に発生が見られるようになるので、発生を見たら直ちに予防と治療効果を兼ね備えた薬剤を散布する。その後の上位葉に新たに病斑が見られた場合は追加散布を行う。

病害虫名 紋枯病

1 予報内容

発生時期：初発は平年並みの6月6半旬

被害程度：少発

発生量：平年、前年よりやや多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 前年発生が多かった圃場では、発生しやすいため、粒剤による本田防除を行う。粒剤の防除適期は薬剤により異なり、施用が遅れると効果が落ちるので注意する。

(2) 茎数が多くなると発病に好適となるため、中干しを行い、過剰げつを抑える。

病害虫名 ニカメイガ

1 予報内容

発生時期：成虫発生最盛期は5月5半旬頃。幼虫加害初期6月1半旬頃で平年より早い

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

(1) イネに白穂等の減収をもたらすのは、主に7月中旬以降に発生する世代であるが、第一世代の発生が多いと、第二世代の発生も多くなるので、常発地では必ず防除する。

(2) 防除適期は、例年より早まる可能性があるため、発生時期に注意する。

病害虫名 イネミズゾウムシ

1 予報内容

発生時期：幼虫の発生最盛期は平年より早い6月5半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年よりやや少なく、前年よりやや少ない

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 直播栽培で被害が大きくなる恐れがあるのでよく観察し、被害の恐れがある場合は早期に防除する。

(2) 中干しを徹底し、幼虫の発生を抑制する。

(3) 箱施薬をしていない場合、最盛期の成虫密度が30頭/100株以上であるか、箱施薬をした場合でも80頭/100株以上であるならば、6月上旬に粒剤を散布する。粒剤散布後は1週間程度湛水する。

病害虫名 イネゾウムシ

1 予報内容

発生時期：成虫の発生最盛期は平年より早い6月2半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 多発時は薬剤散布を行う。

(2) 低温時は成虫が水中に潜んでいることが多いため、薬剤散布は晴天時の日中に行うのが有効である。

病害虫名 イネクビホソハムシ (イネドロオイムシ)

1 予報内容

発生時期：ふ化最盛期は6月3半旬頃、被害最盛期は6月4半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より多く、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

(1) 発生が多い場合は、ふ化最盛期の6月中旬に薬剤を散布する。

病害虫名 イネヒメハモグリバエ

- 1 予報内容
発生時期：加害盛期は6月2半旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年より少なく、前年より少ない
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 育苗箱施薬をしていない場合、被害が大きくなる恐れがあるので薬剤防除を検討する。
(2) 直播栽培は被害を受けやすいので、薬剤防除を検討する。
(3) 深水を避け、産卵場所となる浮き葉、流れ葉を減らす。

病害虫名 スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)

- 1 予報内容
発生時期：
発生程度：極局中発
発生量：前年より多い
- 2 防除対策
(1) 昨年初発が確認された地域では、越冬成貝が確認されている。
(2) 発生が認められる水田では、田植え後約3週間、水深を出来るだけ浅く保つ。
(3) 発生が多い水田では、メタアルデヒド粒剤等の薬剤を散布する。

[ダイズ関係]

病害虫名 紫斑病

- 1 予報内容
被害程度：少発
発生量：平年、前年より少ない
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 健全な種子を使用し、播種前にフルジオキシニルの種子塗抹処理を行う。
(2) 発病した株は早期に抜き取る。

病害虫名 茎疫病

- 1 予報内容
被害程度：少発
発生量：平年より少なく、前年よりやや多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 播種前にメタラキシルMの種子塗抹処理を行う。
(2) 溝切り、補助暗渠の施工、培土など圃場の排水促進に努める。
(3) 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
(4) 発病した株は早期に抜き取る。

病害虫名 フタスジヒメハムシ

- 1 予報内容
発生時期：越冬成虫発生最盛期は6月上旬
被害程度：少発、局中発
発生量：平年並み、前年より多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 防除効果の高いチアメトキサム剤の種子塗抹処理を行う。
(2) チアメトキサム剤の種子塗抹処理により、ネキリムシ類等との同時防除も可能である。

[野菜関係]

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
トマト	疫病	6月上旬	少発	平年：やや多 前年：並み	1) 被害茎葉は早期に除去し、圃場外で処分する。 2) 予防散布を行う。
	青枯病		少発	平年：やや少 前年：並み	1) 過度の灌水を避ける。 2) 被害株は早期に除去する。
	葉かび病	6月上旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) 過度な灌水をせず換気に努め、過湿を避ける。 2) 肥料切れや着果負担による草勢低下は発病を助長するため、適正施肥に努める。 3) 予防散布を行う。 4) 薬剤は葉裏にもよくかかるようにする。 5) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	灰色かび病	6月上旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：やや多	1) 過度な灌水をせず換気に努め、過湿を避ける。 2) 肥料切れや着果負担による草勢低下は発病を助長するため、適正施肥に努める。 3) 被害果や茎葉は早期に除去し、圃場外で処分する。 4) 同一系統薬剤の連用は避ける。
キュウリ	うどんこ病		少発	平年：並み 前年：並み	1) 多肥栽培を行わず、適正な施肥管理を行う。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	べと病		少発	平年：やや多 前年：やや多	1) 圃場排水をよくし敷きわらを行うとともに、通風、採光をよくし、過湿を避ける。 2) 肥料切れしないよう、適正な肥培管理を行う。 3) 被害葉を除去し、圃場外で処分する。 4) 同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
スイカ	炭疽病	6月下旬	少発	平年：並み 前年：やや少	1) 敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2) 被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	つる枯病	6月下旬	少発	平年：並み 前年：やや少	1) 敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2) 被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3) 同一系統薬剤の連用は避ける。
	疫病	6月下旬	少発	平年：並み 前年：並み	1) 敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2) 予防散布を行う。
ネギ	さび病		少発	平年：やや少 前年：並み	1) 適正施肥に努め、草勢を良好にする。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。 3) 薬剤防除の際には、展着剤を加用し、葉全体に薬液が付着するようにする。
バレイショ	疫病	6月中旬	少発	平年：並み 前年：並み	1) 予防散布を行う。
全般	アブラムシ類	加害盛期： 6月中旬	少発	平年：並み 前年：並み	1) 対象作物により薬剤が異なる。
	ヨトウムシ類	加害盛期： 6月中旬	少発	平年：やや少 前年：少	1) 対象作物により薬剤が異なる。
	ネキリムシ類	加害盛期： 6月上旬	少発 (局中発)	平年：やや多 前年：並み	1) 対象作物により薬剤が異なる。
ウリ類	ウリハムシ	成虫加害盛期： 6月上旬 幼虫加害盛期： 6月下旬	少発 (局中発)	平年：少 前年：やや少	1) 対象作物により薬剤が異なる。
アブラナ科野菜	モンシロチョウ	加害盛期： 6月中旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：やや少	1) 加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2) 対象作物により薬剤が異なる。
	コナガ	加害盛期： 6月上旬	少発	平年：やや多 前年：やや多	1) 加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2) 対象作物により薬剤が異なる。

野菜名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
トマト ナス ピーマン	オオタバ コガ	加害初期： 6月中旬	少発	平年：やや少 前年：やや少	1) 果実に食入するため、加害初期の若齢幼虫期に防除を徹底する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナシ	黒星病		少発	平年：やや多 前年：並み	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し、園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が混み合っている場合は剪定して風通しを良くする。
	黒斑病		少発	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し、園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が混み合っている場合は剪定して風通しを良くする。
	赤星病		少発	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し、園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が混み合っている場合は剪定して風通しを良くする。
ウメ	すす斑病	果実初発： 6月下旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) ネット収穫や晩生品種‘新平太夫’など6月下旬以降に収穫する園では、薬剤の使用時期(収穫前日数)に注意し、6月上旬まで薬剤散布を行う。 2) 防風垣等の隣接樹木やウメ樹に適切なせん定を行い、適度な通風を確保する。

[花き関係]

花き名	病害虫名	予 報 内 容			防除対策および 防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キ ク	白さび病		少発	平年：並み 前年：並み	1) 罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2) 日当たり、風通しを良くする。 3) 同一系統薬剤の連用を避ける。
	アブラムシ類	加害盛期： 6月中旬	少発	平年：並み 前年：並み	1) 同一系統薬剤の連用を避ける。 2) 圃場周辺の除草に努める。
	オオタバコガ	初発期： 6月中旬	少発	平年：やや少 前年：少	1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 圃場周辺の除草に努める。
	ミカンキイロアザミウマ	加害盛期： 6月下旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 圃場周辺の除草に努める。 3) 早期発見に努め、密度の低いうちに薬剤防除する。